

街の便利屋から デザイン・内装まで 全ての仕事に“愛”を込める

内装業から広告デザイン、街の便利屋まで、幅広い業務を手掛ける(株)エムズアーク。同社の阿久津社長は、単なるビジネスとしてではなく、様々な人の想いを乗せて一件一件の依頼に取り組んでいるという。同氏のモットーである“全てのものに愛がある”という言葉の真意とは――。

東京都知事 許可(般-17)第125501号
[本社・デザインルーム]
〒173-0026 東京都板橋区中丸町36-13 第1田中ビル 1F
TEL 03-5986-1722
[東京営業所]
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-16-5 ミヤマビル 501
TEL 03-3831-6800
URL <http://www.msarch.jp>

株式会社 エムズアーク

何でも屋もこなす設計事務所

山川 入り口に大きく御社の業務内容が書かれていて分かりやすいですね！内装のデザイン・設計施工がメインだと伺っていますが、パンフレットや名刺などの広告デザインも手掛けられているんですか。

阿久津 ええ。当社には広告系のデザインも手掛けられる子がいるので、広告事業部を興しました。Webサイトにある私や社員の似顔絵も、彼女が描いたんですよ。他にも、当社には助太刀事業部というちょっと変わった事業があるんですよ。ここへ移転した時に「何かおもしろいことをしよう」と思って、おつかいから家電製品の掃除、ルームクリーニングまで、個人・法人を問わず困りごとに対応する便利屋として立ち上げたんです。初めは「家のクーラーが壊れたから

直してほしい」という近所のお婆ちゃんが依頼主だったんですけど、掃除するだけで終わってしまったのを覚えていますよ(笑)。今はイベント設営や店舗運営のお手伝いもあれば、地元のお祭りのちょうちんの設置まで、何でもやっています。

山川 工務店などでも細かい修理などに応じてくれるところはありますが、こちらは本当に「街の何でも屋」として活動されているんですね。内装業ではどのような建物をメインに手掛けているんですか。

阿久津 商業施設や店舗、パチンコ店が多いかな。当社は「かわいい」「清潔」をコンセプトに、ピンクや白を使ったデザインを得意としています。そう言うクライアントも最初は「え？」って顔をするんですけど、パチンコ店って40～50代のおじさんたちばかりが行くイメージが強いので

しょう。入ったことのない女性や若い人には入りづらいと思うんだよね。でも、店内がピンクや白だったら入りやすくなる。クライアントも新しい顧客層が開拓できるならということで、最終的には納得してくれますよ。

クライアントからの信頼

山川 社長はいつ頃この業界に入られたのですか。

阿久津 26歳の時かな。14年ほどずっと工務店で働いていたけど、ほとんど休みがない仕事だからふっと休みたくなって。独立を考えていた訳じゃないけど、辞めた後、自然に個人で仕事を請けるようになって、2004年に当社を興したんです。会社として苦しい時期もあったけど、クライアントに恵まれたおかげで軌道に乗せることもできました。中には10年

以上のお付き合いになるクライアントさんもいるんですよ。

私がまだ丁稚だった頃、その方がオーナーを務める店舗の改装をした時に、真冬の寒い中で投光器で暖を取りながら作業する私を見て「この人にやらせてあげたい」と思われたそうなんです。それ以来、その方の店で設備系の問題があった時は必ず呼ばれるようになりました。だから、夜中の1時とか2時に電話がかかってきても、当社では絶対対応してきましたよ。改装も今まで5回くらい任せてもらいましたね。

山川 よほど信頼されているんですね。Webサイトにもありましたけど、「塵も積もれば山となる」――この精神を大切にしてきたからこそだと思います。

全ての仕事に愛を込めて

山川 社長のプロフィールの“好きな言葉”に「全てのものに愛がある」と書かれてありましたけど、あれはどういう意味なんですか。

阿久津 あれは、人生においても仕事においても、愛無くしては何も大切にはできないということなんです。

我々の仕事は、クライアントから一時的に資産をお預かりして施工する仕事でしょう。自分のものよう



株式会社 エムズアーク 代表取締役
阿久津 正寿人
Akutsu Makoto

東京都板橋区出身。学業修了後、料理人を目指して飲食業界へ。26歳で内装業界に転職し、工務店などに勤務。約14年間、設備工事や内装業の経験を積んだ後、個人事業主として独立。2004年に(株)エムズアークを設立し、現在に至る。

に愛情を持たなければ、良いものはできあがりません。もっと言えば、その改装費用はお客さんがクライアントに払ったお金から出ている。前にパチンコ店をリニューアルした時、並んでいたお客さんが口々に「ここで負けた金で…」って言ってたんだよ(笑)。我々はそのお金で生活したり家族を養っているんだから、ありがたみを忘れたら絶対にいけない。仕事をしてお金をもらうというのはそういうこと。だから、自分の仕事に責任が持てない人間はどこ誰だろうと怒ります。どんな仕事でもそうでしょう？

山川 確かにそうです。社長にとっては、大切にしよう、責任を持とうという気持ちそのものが“愛”というこ

となんです。

阿久津 仕事というのは、生きていくために絶対しなきゃいけないことだからね。今の若い子の中には、「実家暮らしだから給料10万円くらいでいい。働くより自分の時間が欲しい」って言う子もいるけど、そんなのは私にしてみれば死んでいるのと一緒ですよ。一生を懸命に生きていくからこそ、一生懸命って言葉があるんだから。

山川 そうですね。社長のお話を伺って、私も改めて自分の人生や仕事と向き合おうと思いました。社長はこれからどのような人生を歩んでいくつもりなんですか。

阿久津 死ぬまで働いていたいね。ずっと社長でいたい。だって、社長なら定年がないから一生働けるでしょう。でも、毎日同じ仕事だと別の仕事をしてみたいくなるんですよ、時々(笑)。既存のものにしがみついたらばかりでも良くないと思うし、やる気があればどんな新しいことだってできると思う。だから、会社を続けながら色々なことを試していきたいね！

GUEST COMMENT 山川 恵里佳(タレント)



時に熱く、時に冗談を交えながらお話して下さった阿久津社長。その一方で、かわいいもの好きだったり、ざっくばらんな一面があったりするのも社長の魅力ですね！社長のモットーである“全てのものに愛がある”という言葉、とても胸に響きました。人生観や仕事に対する姿勢などから、学ばせて頂くことが多い対談でした！